

分考通信

第九号

2017年12月号

文責
中伸一



人権LHR

映画「聲の形」を観る

今年の人権週間の啓発活動目標のサブタイトルは「考えよう 相手の気持ち未来へつなげよう 違いを認め合う心」とあります。

それにちなんで本校でも、

12月14日(水)に、アニメ映画「聲(こゑ)の形」を観ました。

アニメ映画「聲(こゑ)の形」を、私は「アニメよろ」と少しバカにしていたのですが、観てビックリ、すごく考えさせられました。

『悩みや葛藤はありません。人間は集団で生きています。だから悩みや葛藤から逃げられないものと思います。それに立ち向かえば、人に優しくなれるのかな』と思いました。(中)



【生徒たちの感想～】

生徒達の感想の一文を載せてみました。

- 「いじめをしている人には注意をすることが必要だと感じました」
- 「障害を持っている人がいたら、みんなで協力して助けないといけないと思った」
- 「人間と言う生き物それぞれ違う」
- 「自分の気持ちを伝えることはとても大切だと思った」
- 「衝突や葛藤が誰の視点からも理解できました。こういったことをぶつつけあえる存在も必要だなと感じた」
- 「主人公達の辛さと自分が思っている辛さの重みは全然ちがいで、なさげなく思えて、前向きになれた」
- 「イジメの側からイジメられる側になり、イジメられる辛さがわかった」
- 「友達はやっぱり大切な存在だと思ったし、友達がいないれば毎日が楽しくなさそうだなと思った」
- 「人はなにかしら自分にコンプレックスを持っているのかなと思った」
- 「アニメーションだったけど、実写よりもリアルに伝わってきた」
- 「一人一人の心の変化が、細かく描かれていて、共感するところがあった」
- 「自分がしたことは絶対後から自分に返ってくる」
- 「人間関係は、小さなことで、すぐにこじれてしまうけど、仲直りしようと思えばすぐにできるんだと思いました」
- 「障害の有無に関わらず向きあい話をし、時にぶつかることで、本物の絆ができあがっていくんだなと思った」。



「ソーセージ作り」講習会

12月20日(水) 5・6限に「ソーセージ作り」講習会を行いました。講師先生は「けむり工房 仙清」の中峯重樹先生にお願いしました。

1年生の総合学習の「地域学習に学ぶ」としての実施です。良い機会なので2・3年生並びに先生方にも体験をお願いし、総勢24名が楽しく参加して美味しいソーセージが出来上がりました。

作業①では、肉温を上げないことが大事だと分かりました。とても指先が冷たかったのが印象的でした。

作業③では、スタッフアーに羊腸を差し込むのが難しく、ひき肉を羊腸内に入れるとき、空気が入らないように、太さを保ちながら羊腸が破れないようにとたいへん気を遣いました。詰め終わったら充填された羊腸の半分の位置で3〜4回ひねり、ひねったところから7〜8cmくらいの長さで2本一緒にねじります。ねじってできた上の穴に片方の1本を返します。この段階ではひき肉は赤っぽく、羊腸はあまり太くはありませんでした。**作業④**では、取り出したら灰色がかった、入れる前よりずっと太くなりました。**作業⑤**では、20〜30分も待たず、5分程で1本試食したら、とても美味しかったです。本来はこの後に乾燥・スモークとして、桜の木のチップで燻してスモークをするそうです。

作業の中での先生のお話がおもしろかったり、感心させられることが沢山あり、楽しい時間を過ごすことができました。3学期には1年生の総合学習で乾燥・スモークの体験をお願いしています。

～ソーセージの作り方～

- ①ひき肉と氷とスパイスをよく練る。
- ②ハンドスタッフアー(充填機)に練ったひき肉を入れて、羊腸に充填する。
- ③羊腸に充填したものを7〜10cmの大きさにリング(ひねる)。
- ④リングしたソーセージを70〜75℃の湯に20分入れる。
- ⑤湯から取り出して冷水に20〜30分入れて冷やす。

